

# 拒絶時の「顔の表情」に関する一考察\*

## －「頼み」と「勧誘」の場面に焦点をあてて－

金楨憲\*\*  
bekka-kim@hanmail.net

### <目次>

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| 1. はじめに   | 4. 結果と分析             |
| 2. 先行研究検討 | 4.1 結果               |
| 3. 研究方法   | 4.2 分析               |
| 3.1 分析資料  | 4.2.1 「頼み」に対する「顔の表情」 |
| 3.2 研究範囲  | 4.2.2 「勧誘」に対する「顔の表情」 |
|           | 5. おわりに              |

主題語: 非言語コミュニケーション(Non-verbal Communication), 顔の表情(Facial expression), 拒絶表現(Refusal Expressions), 頼み(Request), 勧誘(Recommendation)

## 1. はじめに

話し手が聞き手に自分の意思や意図を伝えるためには言葉で伝えたり、話ができない状況においては字を書いて伝えたり、相手が視野にあるが距離があって聞こえそうにないと判断した場合は体を用いる、ジェスチャーという手段を選んだりする。このように相手とのコミュニケーションの取り方は多様であり、大別すると、言語による言語コミュニケーションと言語によらない非言語コミュニケーションに分けることができよう。

話したり字を書いたりして伝える方法をVCだといえればジェスチャーなどの言語によらない方法はNVCである。言語を使わないコミュニケーションにはジェスチャーの他、手の動

\* 金楨憲(2014.5)「断り表現と顔の表情」『韓国日本近代學會 春季國際學術發表大會 發表資料集』pp.137-140の内容を補完した。また、김정현(2014b)「거절시의『아이컨택』한일비교」『日本言語文化』pp.335-358での同じデータ資料を用いたため、一部内容の重なるところがある。

\*\* 韓國外國語大學校 日本語學 談話分析

1) 東山(1989)の Non-verbal Communication(非言語コミュニケーション, 以下NVC)に対し、辞典的意味である、口頭伝達、つまり、Verbal Communication(言語コミュニケーション, 以下 VC)がある。

き、「顔の表情」、目の動き、姿勢、相手との距離、広範囲でいえばその日の化粧や衣装までもある。

チャーリー・チャップリンの無声映画は特に、言葉による意思伝達ではなく身体の動きや「顔の表情」だけで無声映画を観る視聴者に伝えようとする内容を無理なく伝えている。このように言語によって発話されるものだけがコミュニケーションの手段であるとは言い切れない。発話されたVCと同時に使われるジェスチャーや表情などのNVCは、話し手の意思伝達をより正確に伝えることができるコミュニケーションの手段である。その重要性をあらわすかのように、NVCは既に談話分析に用いられてきている。発話された音声データを文字化する際にポーズ(…)を入れたり、笑い( @@、[拍手]、[咳払い]、大きい声、小さい声、笑いながら(@ @)など)発話と同時に行われる話し手のNVCもまた付け加えて、文書や談話文を読む読者に話し手の発話をそのまま伝えようと努め、話し手の心的態度や変化などをあらわそうとしている。つまり、NVCの重要性を立証しているのである。

NVCを用いる方法には様々な方法があるが、その中で目と音のない「笑い」を文字化するのは談話分析の際、なかなか扱われていない。談話中の非言語として最も話し手の心境をあらわすことができるのは「顔の表情」と「目の動き」ぐらいであろう。目に関して「目は口ほどに物を言う」という諺があるのはその人の心的状態が本能的にあらわれるからであると思われる。また、急な要求や要請などには慌てたり、困った「顔の表情」を隠せなかったりするの、人間本能に従順して自然にあらわれる現象であろう。西原(1995)は「顔の表情から私達は、話し手の様々な感情を読み取ることができる」と述べている。特に、断らなければならぬ人の「顔の表情」はなおさらであろう。

金・張(召・장2004)はまた、「顔の表情」の機能について副次的機能の中の言語的メッセージの伝達機能があると言及している。

このようにVCはNVCと密接な関係を持っている。しかし、今までのコミュニケーションに関する研究は発話されるVCに集中されてきたのが事実である。それゆえに本考察では、「頼み場面」と「勧誘場面」において、韓国人と日本人が断る際に見せる「顔の表情」の様相を比較することを目的とする。

2) ザトラウスキー・ポリー(1993)の文字化に使用する記号や文字などの方法を多くの研究者が参考にして各自の研究に合わせ、クリエイティブに創って用いた。次第にパソコンの普及が広がりはじめ、キーボードにある文字や記号又はソフトの文字表を用いることとなった。したがって、文字化の方法はさらにバラエティーになった。

## 2. 先行研究検討

まず、<表1>において言語的、非言語的という区分について検討する。それから、本一考察の対象となる「顔の表情」について検討する。

東山(1989)はLaver&Hut-cheson(1972)の伝達手段を参考にまず、言語的、非言語的に分類し、さらに第2段階として音声的、非音声的に分けている。

<表1>言語的、非言語的 伝達手段

分類		伝達手段の例	研究分野
言語的	音聲的	話し言葉	言語學
	非音聲的	文語(名刺、報告書など会話中に参照するもの)	
非言語的	音聲的	声の高さ、抑揚、音量、話の速度、声の質など	準言語學
	非音聲的	身振り、手振り、顔の表情、視線の動き、姿勢	身體動作學
		相手との距離、時の扱い方、体の向きなど	近接空間學
		衣服や髪型の選びなど	-

東山は非言語的伝達手段の中でも声帯を通して出る音声的部分を準言語學の研究分野に分けている。よって、本考察での対象となる「顔の表情」は非言語的側面の非音声的伝達手段となる。しかし、「顔の表情」を含む非音声的部分を用いる伝達手段を非言語という語彙で簡単に定義してしまうのはどうも納得のいかないところがある。それは、会話参加者同士の意志伝達を無理なく担っているからである。したがって、本一考察においては漢字語である「非言語」ではなく、原語そのまま、Non-verbal Cummunicationを使用する。次に「顔の表情」に関する研究を見てみる。

崔(최1999)は「顔の表情」が持つ重要性について以下のように述べている。

얼굴은 커뮤니케이션 잠재력이 가장 많은 부분이며, 우리의 감정을 가장 많이 나타내는 신체 부위기도 하다. 얼굴은 또한 사람들과의 관계에서 태도를 반영하고 다른 사람의 말에 비언어적 피드백을 제공한다. 커뮤니케이션채널을 열고 닫고 언어 또는 비언어 반응을 보완하며 말을 대신한다.

(顔はコミュニケーションの潜在力が一番多い部分であり、私たちの感情を一番多くあらわす身

体部位でもある。顔はまた、他人との関係において態度を反映し、他人の言葉に非言語的フィードバックを提供する。コミュニケーションチャンネルを開けたり、閉じたり、言語又は非言語反応を補完し、言葉のかわりをする。： 筆者訳)

(『커뮤니케이션 모노그래프24 비언어 커뮤니케이션』p.82)

つまり、顔の作用について崔(최)は①コミュニケーションチャンネルの開閉をして②言語又は非言語の反応を補完し③言葉の代わりにすると言っている。

もの事を断る際に言葉で丁寧に、または婉曲に断ったつもりであっても、相手の気分をそこねたり、面子を潰したりする可能性はまだ残っている。そこで「顔の表情」は相手に対する申し訳なさや丁寧さなど、言葉ではあらわせない部分を補う役割をしている。

まず、本考察のため収集したデータからは、断る際に笑う傾向があるが、人はなぜ笑うのかについて考える必要がある。おもしろいから、たのしいから、うれしいからというポジティブ的な要因で笑ったりする。反対に悲しいから、困るから、おかしいからというネガティブ的な要因でも笑ったりする。この他にも人の笑う理由は様々である。早川(1995)は笑いの理由を探る中、以下の大きい3つの笑いの機能を見いだした。

(1) バランスをとるための「笑い」

- ① 照れによる「笑い」 / 緊張緩和の「笑い」
- ② 恥じによる「笑い」
- ③ 相手に対して言っていることの内容を軽くするための「笑い」

(2) 仲間造りの「笑い」

- ① 場面を盛り上げる「笑い」
- ② 人を誘い込みたいときの「笑い」
- ③ 共通の理解をもつ仲間のあいだの「笑い」

(3) フィラー(Filler)としての「笑い」

- ① ごまかしの「笑い」
- ② とりあえずの「笑い」

この中で、相手に対して言っていることの内容を軽くしたい、緩和したいということが目的の「笑い」があるが、これは聞き手の望むことに応じないで面子を脅かす断りの場面において用いられる笑いであると考えられる。本考察での「笑い」は「断り表現」を伴う場合のみのもので、上記の(1)の中の③が当てはまる。以下では、断る際の具体的な「顔の表情」の分類について見てみる。

任(임2002)は断る際の「顔の表情」をテレビドラマの画面をキャプチャーしたものを「断り表現」と一緒に提示して、微笑、無表情、泣き顔に3つに分けて考察を行っている。その結果、微笑は和やかな雰囲気を作り出し、断りの旨を和らげるが、無表情、泣き顔の場合は断りを示すシグナルになったり、言いづらいメッセージがふくまれていることを補足したり、強調したりすると報告している。また、うち、そと、よそという3つのカテゴリーに分けて、韓国人と日本人の差を比較している。

本一考察では上記の先行研究をふまえて、「顔の表情」の機能、「親しい関係」と「親しくない関係」における「顔の表情」の様相を考察する。

### 3. 研究方法

#### 3.1 分析資料

まず、本考察に用いた韓日ドラマ<sup>3)</sup>とその中にあらわれた「頼み場面」と「勧誘場面」出現個数を以下に提示する。

<表2> 韓日ドラマの「頼み場面」及び「勧誘場面」の出現個数<sup>4)</sup>

	드라마		頼み場面	勧誘場面
韓國	① 광고천재 이대백 ③ 최고다이순신 ⑤ 찬란한 유산	② 열혈 장사꾼 ④ 태양의 여자 ⑥ 내 이름은 김삼순	60	66
日本	① 曲げられない女 ③ ブザー・ビート ⑤ Around40	② 陽はまた昇る ④ 冬のさくら ⑥ 1リットルの涙	78	60

3) TVドラマを選んだ詳細理由については蒲谷宏(2013)『待遇コミュニケーション論』大修館書店と金楨憲(2014a)

「断りにおける『理由表明』の韓日比較-『頼み』『勧誘』『提案』の場面に焦点をあてて-」『日本言語文化』を参照。

4) 김정현(2014b)「거절시의『아이컨택』한일비교」『日本言語文化』pp.335-358で用いた資料でもあり、アイコンタクトを対象にし、研究を行った。しかし、本一考察での対象は「顔の表情」である。ただ、同じ資料であるがゆえに資料の説明に重複する場合がある。

韓国ドラマ6編、総45話、全部で41時間25分、日本ドラマ6編、総50話、全部で37時間30分を分析した結果、韓国ドラマでは「頼み場面」が60ヶ所、「勧誘場面」が66ヶ所見えた。また、日本ドラマでは「頼み場面」が78ヶ所、「勧誘場面」が60ヶ所あった。韓国ドラマでは「勧誘場面」が、日本ドラマでは「頼み場面」が多くあらわれた。

### 3.2 研究範囲

本一考察では、断る際のVCと同時に用いられる「顔の表情」に限定して、その様相と機能を「頼み場面」と「勧誘場面」に分けて比較する。その理由は利益が聞き手にあるか、話し手にあるかによって断りへの負担が「顔の表情」に影響を及ぼし、表情のあらわれが異なると考えられるからである。利益の受け手は以下の通りである。

「頼み」 - 頼む人に利益がある

「勧誘」 - 誘われる側の利益が大きい

本考察においては話し手に利益がある「頼み」、聞き手に利益が大きい「勧誘」のみを対象にする。また、断る際の「顔の表情」の分類は先行研究を参考にした上で、「笑い顔」「困った顔」「無表情」の3つに分ける。



「笑い顔」



「困った顔」



「無表情」

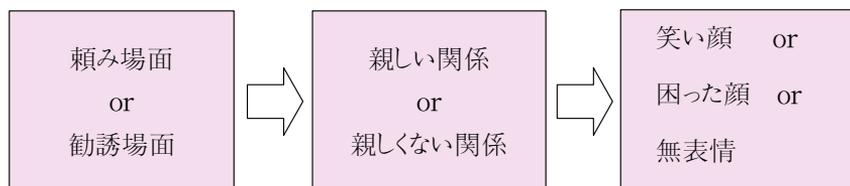
<絵1> 顔の表情区分

「笑い顔」には口を開けて笑う大笑い、唇は離れないが、にっこり笑う微笑い、眉の間をよせて笑う苦笑いなど色々あったため本考察では細分化しないで「笑い顔」一つとする。ま

5) 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店参照

た、「困った顔」は眉の間にしわが入った顔である<sup>6)</sup>。「無表情」は怒った顔でもない、何の意味も読み取れない「顔の表情」である。

本考察での研究の流れを以下の<図1>に示す。



<図1> 場面ごとの関係による「顔の表情」区分

以下では断りを言う側の負担度と関連づけて①「親しい関係」と「親しくない関係」における「顔の表情」の様相、②「上下関係」における「顔の表情」の様相について分析を行う。

## 4. 結果と分析

### 4.1 結果

研究方法の<図1>に提示した流れに従い、<表3>に「顔の表情」の出現様相を提示する。今回の考察における「顔の表情」は韓国の場合、「笑い顔」が84回、「困った顔」が30回、「無表情」が84回あらわれ、断る際に「断り表現」と一緒に「無表情」がより多く使われていることがわかる。また、日本の場合には「笑い顔」が36回、「困った顔」が24回であり、「無表情」が81回で一番多い出現数をみせている。詳しく出現数は以下の<表3>と<表4>に「頼み場面」と「勧誘場面」に分けて示す。

6) 芳賀(2004)は顔の表情について「困った、申し訳ないという表情をする時、目を細くして眉間にしわをよせる」といっている。

&lt;表3&gt; 「頼み場面」での「顔の表情」の出現様相

		笑い顔	困った顔	無表情
韓国	親しい関係	3(12.5)	3(20)	12(44.4)
	親しくない関係	21(87.5)	12(80)	15(55.6)
	合計	24(100)	15(100)	27(100)
日本	親しい関係	0(0)	15(100)	18(40)
	親しくない関係	15(100)	0(0)	27(60)
	合計	15(100)	15(100)	45(100)

全体的に目をとおしてみると、韓国の場合に「笑い顔」が24回、「困った顔」が15回、「無表情」が27回を示し、日本の場合には「笑い顔」と「困った顔」が15回、「無表情」が45回を示しており、「頼み場面」では韓国、日本両方とも「無表情」が一番多く使っていることがわかる。

まず、韓国の場合、「親しい関係」における「顔の表情」の総出現数は18回であり、「笑い顔」3回と「困った顔」3回に比べて「無表情」が12回で、4倍も多く使われていることがわかる。また、「親しくない関係」では、「顔の表情」の総出現数は48回であり、「笑い顔」21回、「困った顔」12回、「無表情」が15回を示し、「笑い顔」が一番多く使われていることがわかる。

次に、日本の場合、「親しい関係」における「顔の表情」の総出現数は33回であり、「笑い顔」0回、「困った顔」15回、「無表情」が18回あらわれた。また、「親しくない関係」では、「顔の表情」の総出現数は42回であり、「笑い顔」15回、「困った顔」0回、「無表情」27回を示して「無表情」が一番多く使われていることがわかる。

以下の<表4>には「勧誘場面」での「顔の表情」の出現様相を提示する。

&lt;表4&gt; 「勧誘場面」での「顔の表情」の出現様相

		笑い顔	困った顔	無表情
韓国	親しい関係	27(45)	6(40)	33(57.9)
	親しくない関係	33(55)	9(60)	24(42.1)
	合計	60(100)	15(100)	57(100)
日本	親しい関係	18(85.7)	9(100)	18(50)
	親しくない関係	3(14.3)	0(0)	18(50)
	合計	21(100)	9(100)	36(100)

全体的に見てみると、韓国の場合に「笑い顔」が60回、「困った顔」が15回、「無表情」が57回であり、日本の場合には「笑い顔」が21回、「困った顔」が9回、「無表情」が36回を示している。「勧誘場面」では韓国の方は、「笑い顔」と「無表情」が多く使われている。日本の方は「頼み場面」と同じく、「無表情」を一番多く使っていることがわかる。

まず、韓国の場合、「親しい関係」における「顔の表情」の総出現数は66回であり、「笑い顔」27回、「困った顔」6回、「無表情」33回を示した。また、「親しくない関係」では、「顔の表情」の総出現数は66回であり、「笑い顔」33回、「困った顔」9回、「無表情」24回を示して「笑い顔」が一番多く使われていることがわかる。

次に、日本の場合、「親しい関係」における「顔の表情」の総出現数は45回であり、「笑い顔」18回、「困った顔」9回、「無表情」が18回あらわれた。また、「親しくない関係」では、「顔の表情」の総出現数は21回であり、「笑い顔」3回、「困った顔」0回、「無表情」18回をあらわし、「無表情」が一番多く使われている。

以上、「親しい関係」と「親しくない関係」において「顔の表情」様相を見てみた。韓国と日本両方、各々の場面において全体的に「無表情」が最も使われており、断る際に用いられるNVCのストラテジーであることを明確にしている。さらに、「無表情」と同時に使われているVCのストラテジーを意味内容の上で検討して意味公式<sup>7)</sup>からみると韓国の場合、上位から「直接」が45回、「理由」が30回であった。日本の場合、上位から「理由」が42回、「直接」が33回、「謝罪」が21回であり、どちらも断りへの負担が大きいストラテジーである。つまり、断る際のその場の堅さを意味内容のVCと一緒に用いられる「無表情」のNVCから読み取ることができる。一方、「勧誘場面」では韓国の方が日本より「笑い顔」の出現数が約3倍も多く、「笑い顔」と一緒に使われたVCを見てみると「直接」が36回、「理由」が36回、「謝罪」が15回である。堅い「無表情」に負担度が大きい「直接」などの組み合わせなら、バランスの取れたように思われるが、「笑い顔」にストレートに言う「直接」などは良くないバランスのように考えられる。それは、笑いながら相手の望むことに反して拒否するからである。しかし、実際の会話などには良く使われるストラテジーである。それは、VCでは断りを伝えて、NVCでは相手がうける断りへの負担を減らし、断る本人のfaceを守るためであると考えられる。

7) 生駒・志村(1993)は、「謝罪」「理由」「条件提示」等、人がものを断るときに使う言葉を、その意味内容によって分類したものを「意味公式」と定義している。

例)「謝罪」-申し訳ありません、「理由」- 約束があるので…、「直接」-だめ /できない/無理  
「延期」-家族に聞いてからでもいいですか、「条件提示」-明日までならできます

以下の<表5>には「上下関係」による「顔の表情」の出現様相を提示する。

<表5> 「上下関係」による「顔の表情」の出現様相

		笑い顔		困った顔		無表情	
		頼み	勧誘	頼み	勧誘	頼み	勧誘
韓国	上の人の場合	6(25)	18(30)	6(40)	0(0)	6(22.2)	9(16.6)
	同級の場合	3(12.5)	6(10)	0(0)	3(20)	9(33.3)	33(61.1)
	下の人の場合	15(62.5)	36(60)	9(60)	12(80)	12(44.5)	15(22.3)
	合計	24(100)	60(100)	15(100)	15(100)	27(100)	54(100)
日本	上の人の場合	6(40)	6(28.6)	6(40)	6(66.6)	18(54.6)	6(16.6)
	同級の場合	6(40)	9(42.8)	9(60)	3(33.4)	9(27.2)	9(25)
	下の人の場合	3(20)	6(28.6)	0(0)	0(0)	6(18.2)	21(58.4)
	合計	15(100)	21(100)	15(100)	9(100)	33(100)	36(100)

<表5>からわかるように韓国の場合、上の人において「困った顔」を除き、「笑い顔」「無表情」が「勧誘場面」で多用されていることがわかる。また、同級の場合には「勧誘場面」で「笑い顔」「困った顔」「無表情」が高い出現数を示していることがわかる。最後に、下の人の場合にもまた、「頼み場面」より「勧誘場面」で「笑い顔」「困った顔」「無表情」が高い出現数を示していることがわかる。

日本の場合、上の人において「頼み場面」のみ、「無表情」の出現数が多いことがわかる。また、同級の場合には「笑い顔」は「勧誘場面」で多く、「困った顔」は「頼み場面」で多くあらわれた。「無表情」は「頼み場面」と「勧誘場面」両方同じ出現数を示している。最後に、下の人の場合には、「困った顔」を除いて「笑い顔」と「無表情」全部「勧誘場面」で高い出現数を示していることがわかる。

以下では「頼み場面」と「勧誘場面」にわけていくつの談話の例をあげ、断る際のVCとNVCの働きを考察する。

## 4.2 分析

### 4.2.1 「頼み」に対する「顔の表情」

笑いは聞き手の望むことに応じないで面子を脅かす断りの場面において用いられている場合がある。次の例1)と例2)を検討しよう。例1)と例2)は全部、「親しい関係」であり、例1)

は同級の場合であり、例2)は「上下関係」である。また、文字化の「ノ」は声の上昇、「↑」は声の急上昇、「ー」は長音、「よね」などの小文字は声が小さいことをあらわしており、以下同様である。

例1) <Around40 3話 18分 44秒>

同僚の医者：緒方先生ーちょっといいノ

緒方：どうしましたノ

同僚の医者：入院中の患者さんで見てもらいたい患者さんがいるんだけど、今いかなー

緒方：(笑い顔)弟のことも預かっているんですよー



<絵2> 同僚の医者「頼み」に「笑い顔」を見せながら断っている場面

例1)の会話をしている二人の関係は同じ病院で働いている医者仲間である。同僚の医者「見てもらいたい患者さんがいるんだけど」という「頼み」に緒方は「弟のことも預かっているんですよー」と言い、後につくべき「出来ません」という、相手に察してもらいたい部分を省略して同僚の医者「頼み」を断っている。VCからみると「頼み」に応じられない「理由」<sup>8)</sup>を言って婉曲に断っている。「断り表現」自体が相手の面子を脅かしてしまう恐れがあるため、断る時の表情には気をつけなければならないというのが一般的考えである。しかし、NVCからみると例1)は笑いながら断りを言うという点でギャップが生じている。このギャップは笑いからきて、話者の言っている断りを和らげるための戦略であることがわかる。このギャップに関して、古川(1998)は表情の働きについて「時に言葉の意味を補い、時に言葉と相矛盾する」メッセージを送って、複雑な感情や意図の伝達を可能にする

8) 生駒・志村(1993)は、「謝罪」「理由」「条件提示」等、人がものを断るときに使う言葉を、その意味内容によって分類したものを「意味公式」と定義している。

例)「謝罪」- 申し訳ありません、「理由」- 約束があるので…、「直接」- だめ / できない / 無理  
「延期」- 家族に聞いてからでもいいですか、「条件提示」- 明日までならできます

といている。次の例2)からもこのような笑いの機能があらわれている。

例2) <최고다 이순신 21話 16分 45秒>

점장: 당분간만이라도.. 아니, 정- 뭐하면 인수인계 할 동안만이라도  
나와서 일하면 안 될까?

순신: 음.. 생각해 볼게요. (笑い顔)죄송해요 점장님.



<絵3> 店長の「頼み」に「笑い顔」を見せながら断っている場面

例2)は店長と従業員の「上下関係」であり、仕事を辞めた元従業員にしばらくでもいいから店に出てもらいたいという店長の頼みに応じられないことを伝える場面である。例2)は「생각해 볼게요」といって「延期」というストラテジーを用いて婉曲に断っている。それから、「죄송해요」の「謝罪」を用いて、相手がうける衝撃を減らそうとしている。VCの「謝罪」に「笑い」というNVCを使ってさらに自分が伝えている「断り表現」を緩和させている。

例1)と例2)は断り場面で起りうる困った時の笑いであり、このような笑いは気まずい雰囲気緩和させる機能をもっている。マリアンラフランス(2012)はこのような困った時の笑いの機能について以下のように述べている。

난처한 웃음도 비슷한 기능을 한다. 음료수를 엮질렀거나, 이름을 잊었거나, 사소한 거짓말이 들통 났다거나 하는 일은 분명히 중요한 일은 아니지만 난처하다. 다커 켈트너는 동료와 함께 실시한 실험에서 난처한 웃음이 불편한 상황을 완화시킨다는 사실을 밝혀냈다. 난처한 웃음은 또 다른 혜택도 제공한다. 몇몇 연구에서 피 실험자들은 진짜로 당황한 모습을 보여주는 사람을 훨씬 좋아하고 용서한다는 것을 밝혀 냈다.

(困こまった笑いも似た機能をする。飲み物をこぼしたり、名前を忘れたり、ささいな嘘がばれたりすることは明確に重要なことではないが、困る。ダコケルトナーは同僚と一緒に実施した実験で困った笑いが不便な状況を緩和させるということを明らかにした。困った笑いはまた、

ほかの恩恵も提供する。いくつかの研究で被験者たちは本当に戸惑いを見みせてくれる人を  
ずっと好み、赦すということを明あきらかにした。：筆者訳

(『웃음의 심리학』p.111)

#### 4.2.2 「勧誘」に対する「顔の表情」

例3) は同じ会社の同僚に食事への勧誘をうけ、断る場面である。

例3) <ブザービート 5話 17分 05秒>

宇都宮：今日は久しぶりに飲みにでもいくか↑

奈月：(困った顔)あー今日はやめときます。まだ仕事があって…

でも、(笑い顔)今度、話聞いてもらっちゃおうかな↗

宇都宮：ok!それじゃーね。



「困った顔」



「笑い顔」

<絵4 >会社の同僚の「頼み」に「笑い顔」を見せながら断っている場面

この例3)からは言語ストラテジーと共に「顔の表情」が「困った顔」から「笑い顔」への変化が見られている。

例3)は食事誘いの場面である。奈月は「誘い」に対して「あー今日はやめときます」と言って非常にストレートに断っている。この「断り表現」はVC的には相手の面子を非常に脅かしているが、NVCからは「困った顔」を見せており、相手に応じられない残念さをアピールしている。このことが、言語であらわした直接的な「断り表現」を和らげ聞き手の負担を減らしている。また、「仕事があって…」と言って断らなければならない理由を伝えて聞き手に納得させている。さらに、最後まで言い切るストラテジーをさけて、中途終了でおえているので断わりだという判断を相手に渡して自身の断りへの負担を減らしながら、相手の負担

を減らしている。次に、断りによって損なった人間関係を少しでも戻そうと「今度、話聞いてもらっちゃおうかな」と言う。ここに「笑い顔」のNVCが加わって断った自身と断られた相手、両方の負担を和らげようとする努力がうかがえる。

この例3)からは言語ストラテジーの変化と共にNVCの「顔の表情」が「困った顔」から「笑い顔」へと変化を見せている。VC、NVC別のストラテジーを簡単に整理すると以下のとおりである。

VC → あー 今日はやめときます。 まだ仕事があって…  
意味公式→ 躊躇 直接 理由

VC → あー今日はやめときます。 まだ仕事があって…  
顔の表情→ 困った顔+中途終了

VC → でも、 今度、話聞いてもらっちゃおうかなノ  
意味公式→ 願望

VC → でも、 今度、話聞いてもらっちゃおうかなノ  
顔の表情→ 笑い顔

VCでの断りストラテジーで、一つの「意味公式」の他、いくつかの「意味公式」が合わさっているものが既に確認できているようにNVCにおいても、この例3)ようにVCの変化に合わせて、NVCも同じく変化させる断りのストラテジーを運用していることがわかる。

このような変化は、韓国では3回だけあらわれて一つの文章の中に変化があらわれるのはめったになかった。しかし、一つの談話全体からみると顔の変化を見つけるのは難しくない。

一つの文章から見つけた3つの表情の変化は全部「無表情」から「笑い顔」への変化であり、後にくる「笑い顔」はやはり、「相手に対して言っていることの内容を軽くするための『笑い』」ということがわかる。日本の場合、2つの顔の変化があらわれ、例3)の「困った顔」から「笑い顔」への変化のほか、「無表情」から「笑い顔」へと変わる表情があった。どちらにしろ、結果的に変化した最後の「顔の表情」は「笑い顔」である。これは、普通、NVCにおいて

も良い対人関係の維持のために「笑い顔」を用いて断りから生じうる、ひびや溝を補おうとしている機能の一面もうかがえる部分である。

例4)は同級の場合であり、「親しい関係」である。久しぶりに会ったことを祝うため、食事に誘う場面である。

例4) <태양의 여자 4話 37分 25秒>

신도영: 오늘 저녁은 내가 쓰게 해줘요.

윤사월: (困った顔) 오늘 저녁은 힘든데.

신도영: 왜요?

윤사월: (困った顔) 다음 주부터 오리엔테이션 끝나고 정식 출근이잖아요.

그전에 가게 재고 정리도해야 되고 물건도 때려가야 돼서...



<絵5> 食事への「勧誘」に「笑い顔」を見せながら断っている場面

신도영의「오늘 저녁은 내가 쓰게 해줘요」に対して윤사월は「困った顔」をして「오늘 저녁은 힘든데」を言って今日は何らかの用事があり、応じられなくて困ることを伝えている。この「困った顔」は発話された内容と一致していて聞き手に断りの意志を強くアピールしている。断られる側は伝えられる言葉より、さきに「困った顔」でまず、断りだということを察することができよう。また、芳賀(2004)が「困った、申し訳ないという表情をする時、目を細くして眉間にしわをよせる」といっているように相手の誘いに応じられないことのすまない気持ちや残念さをあらわしていることがわかる。

## 5. おわりに

本研究では「頼み」と「勧誘」に対して、断る際の「顔の表情」について考察を行った。「顔の表情」を「笑い顔」「困った顔」「無表情」の3つに分けて ①「親疎関係」での「顔の表情」の様相②「上下関係」における「顔の表情」の様相を考察した。

その結果、「笑い顔」と「困った顔」は断られる人の負担を減らす機能を持っていることがわかった。特に、「勧誘」より断りへの負担が大きいと予想される「頼み」において「笑い顔」を多用していることがわかる。

「勧誘場面」と「頼み場面」両方、韓国の場合「笑い顔」と「無表情」が主に使用され、日本の場合「無表情」が最も多く用いられていることがわかった。

韓国の場合、「勧誘場面」の「親しい関係」と「親しくない関係」において「顔の表情」の出現数は大きい差を示さなかった。一方、「頼み場面」においては「笑い顔」の出現数は「親しい関係」で3回、「親しくない関係」では21回で、大きく差を見せた。

これは、断りの負担が大きい「頼み場面」で、損ないそうな相手の気分を最大限、良い方向に保持するための努力としての機能を持っている。

日本の場合、「勧誘場面」では「親しい関係」と「親しくない関係」もまた「顔の表情」の出現数はあまり差はなかったが、「頼み場面」においては「親しくない関係」で若干、高い出現数を占めた。

最後に、「顔の表情」の変化も見られて、VCの変化に合わせて、NVCも同じく変化させる断りのストラテジーを運用していることがわかった。

以上、断る際にVCと同時に使われるNVCの「顔の表情」について考察を行った。今後の課題として、より多くの資料を集めて本考察を検証しつつ、「顔の表情」の分類を綿密にする必要がある。

### 【参考文献】

- 김우룡-장소원(2004)『비언어적 커뮤니케이션론』나남출판  
 김정현(2014b)「거절시의『아이컨택』한일 비교」『日本言語文化』  
 마리안 라프랑스, 윤영삼, 율김(2012)『웃음의 심리학』중앙북스  
 최윤희(1999)『커뮤니케이션 모노그래프24 비언어 커뮤니케이션』커뮤니케이션북스  
 任鉉樹(2002)「日韓断り行動における言語・非言語ストラテジー」名古屋大學 大学院 博士論文  
 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店

- 金楨憲(2014a)「断りにおける『理由表明』の韓日比較」『日本近代学研究』45輯  
ザトラウスキー・ポリー(1993)『日本語の談話の分析—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版  
東山安子(1989)「日常会話モデル—言語と非言語を含んだIntegrativeApproachの立場から—」『記号学研究』  
Vol.9  
西原鈴子(1995)「異文化接触における非言語行動」『日本語学』Vol.14  
早川治子(1995)「日本人の『笑い』の談話機能」『言語と文化』第7号  
\_\_\_\_\_(1997)「日本人の『笑い』の談話機能—2—出現率と場面」『言語と文化』第9号  
古川左紀子(1998)「コミュニケーションの中の表情」『月刊言語』Vol.27-12  
芳賀綴(2004)『日本人らしさの構造』大修館書店

---

논문투고일 : 2014년 12월 10일  
심사개시일 : 2014년 12월 20일  
1차 수정일 : 2015년 01월 08일  
2차 수정일 : 2015년 01월 14일  
게재확정일 : 2015년 01월 19일

---

---

 <要旨>
 

---

## 拒絶時の「顔の表情」に関する一考察

- 「頼み」と「勧誘」の場面に焦点をあてて -

本研究では「頼み」と「勧誘」に対して、断る際の「顔の表情」について考察を行った。「顔の表情」を「笑い顔」「困った顔」「無表情」の3つに分けて①「親疎関係」での「顔の表情」の様相 ②「上下関係」における「顔の表情」の様相を考察した。

その結果、「笑い顔」と「困った顔」は断られる人の負担を減らす機能を持っていることがわかった。特に、「勧誘」より断りへの負担が大きいと予想される「頼み」において「笑い顔」を多用していることがわかる。

「勧誘場面」と「頼み場面」両方、韓国の場合「笑い顔」と「無表情」が主に使用され、日本の場合「無表情」が最も多く用いられていることがわかった。

韓国の場合、「勧誘場面」の「親しい関係」と「親しくない関係」において「顔の表情」の出現数は大きい差を示さなかった。一方、「頼み場面」においては「笑い顔」の出現数は「親しい関係」で3回、「親しくない関係」では21回で、大きく差を見せた。

これは、断りの負担が大きい「頼み場面」で、損ないそうな相手の気分を最大限、良い方向に保持するための努力としての機能を持っている。

日本の場合、「勧誘場面」では「親しい関係」と「親しくない関係」もまた「顔の表情」の出現数はあまり差はなかったが、「頼み場面」においては「親しくない関係」で若干、高い出現数を占めた。

## A Study on the Facial expression at the time of refusal

- Focused on the scene of “Request” and “Recommendation” -

In this study, “facial expressions” are investigated when refusing to the “request” and “recommendation”. “Facial expressions” were divided into 3 parts such as “smiling face”, “hard face” and “expressionlessness”. The researcher compared ①the function of facial expression, ②the aspect of the facial expressions in the relative degree of intimacy and ③the aspect of the facial expressions in the hierarchy.

As a result, “a smiling face” and “hard face” were shown to reduce the burden of rejection. The researcher found out that they are used a lot with the “smiling face” particularly in ‘request’ to be considered a greater burden of rejection than ‘recommendation’. In case of Korea for both ‘the scene of recommendation’ and ‘the scene of request’, “smiling face” and ‘expressionlessness’ were used mainly, but ‘expressionlessness’ in case of Japan.

In case of Korea, both ‘friendly relationships’ and ‘less friendly relationships’ appeared at a similar rate in the ‘the facial expressions’ of ‘the scene of recommendation’ respectively. Especially the emergence of a smiling face in “the scene of request” appeared 3 times in the “friendly relationships”, but 21 times by a big difference in the “less friendly relationships”. This is that the function to reduce the burden of rejection primarily can be seen with efforts they did not want to hurt as much as possible in the burden of refusal in the big “the scene of request”.

In the case of Japan, both ‘friendly relationship’ and ‘less friendly relationship’ appeared at a similar rate in the ‘facial expressions’ of ‘the scene of recommendation’ respectively, but ‘the scene of request’ had a slightly higher number of occurrences in the ‘less friendly relationships’.

As for our future work, more careful classification of facial expression with more data and verification of the results of this study.